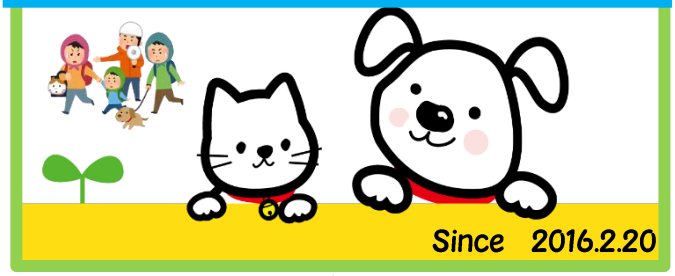
ペットとぼうさい情報　No6



ホームページアドレス QR コードです↓

http://www.geocities.jp/pettobousai2016/

災害時、家族の一員であるペットは
どうなるの？大地震で家が壊れたら、
一緒に避難所に逃げられるの
かしら？

こんな疑問を持った仲間が集まり、イザ！と言う時にペットと同行避難ができるように、**ペットと飼い主さんの日常の備えの啓発活動**や、**災害時のペット同行避難所の設置を目指し**、栗平･白鳥地域を拠点に活動をしているボランティアサークルです。

（現在　メンバー8 名）

朝日新聞 2017 年 5 月 29 日付より抜粋

ペットと避難　備えと覚悟　～状況は様々　準備できることは～

環境省が飼い主向けに 11 年に作ったパンフレットなどでは、平時の備えとして、家具や家電の固定の重要性を挙げている。ブロック塀などの近くでは飼わず、窓ガラスが飛散しないよう、防護フィルムを貼っておくと良い。食べ物は 5 日分以上備蓄し、ワクチンの接種証明やペットと飼い主が一緒に写った写真を用意しておけば、はぐれた場合に役立つ。

地震発生時にペットが驚いて外に飛び出し、「迷子」になってしまうこともあるので、人に飼われていると示すマイクロチップも有効だ。マイクロチップは直径約 2 ミリ、長さ約 1 センチの円筒形で、動物病院で首の後ろなどに注射器で埋め込む。費用は数千円だ。動物病院や警察署にある読み取り機をチップにかざすと表示される 15 桁の数字を元に、ネットの「動物 ID 情報データベースシステム」で照合すれば飼い主がわかる。

すぐに避難できるよう、キャリーバッグは普段から部屋に置いて慣らす。「病院に連れて行かれるかも」と嫌がる場合もあるので、中で好物を与えるなど印象を良くすると、スムーズに運び出せる。猫は首輪が抜けることがあるので、前脚を通すハーネス（胴輪）を使う方法もある。

自宅の建物に十分な耐震性があり、火災の恐れがない場合や、行政の避難の呼びかけがない場合は、ペットを自宅に残したり、一緒にとどまったりする選択肢もある。親類や友人、地域の人に一時的に預かってもらえる関係があれば、避難所に連れて行かなくても済む。

飼い主が外出中に被災し、ペットが自宅に残された場合は、慌てて連れに戻らず行政に相談した方が良い。日本獣医師会会長の村中さんは「無理をした飼い主を救助する人が二次災害に遭いかねない。人命優先が絶対だ。1 人で何匹も飼っている人は、災害時に本当に面倒を見られるかも、もう一度考えて」と話す。

定例会は、毎月第 1 土曜日、午後 3 時から、栗平白鳥自治会館にて実施しています。
※都合により、日程や場所が変更になることがあります。　ホームページでご確認ください。